

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中 1階		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの思いを把握し、その人にとって一番良い暮らし(集团の中での個別ケア)が、提供できるように支援している。 ・当ホームは地域行事が盛んであり、特に近隣神社のどんど祭りや、みこし祭りは利用者の心を、元気にし又いつでも手を合わせる癒しの場所として、毎日散歩に出かけている。 ・職員は孫のような若い職員から、娘や息子、又兄弟のような幅の広い年齢層であり、その時々の利用者の状態に合わせて臨機応変に、関わりを持つことができている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaihosip/infomationPublic.do?JCD=2774002352&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年5月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>北大阪急行桃山台駅から熊野町一帯は、豊中市でも新興高級住宅街であり、当ホームもその一角に開設されていて住環境は非常に良い。理念に示されている通り、近接の中学生の介護体験実習生を受入れたり、地域行事(近接神社のどんど祭り、みこし祭りなど)に参加したり、ホームからも認知症セミナーを開いたりして地域に貢献し、地域との連携は充分出来ている。また、利用者本位の個別ケアを徹底され、職員もその意義を理解し職務に精励している。2階の廊下の一部分にコミュニケーションスペースとして和風のスペースを設け、家族に開放している。厨房もリビングと対面式であり、見守りケアに適している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・私達は、その人にとって一番良い暮らしを支援します。・保健、福祉、医療との連携をはかり、地域や地域住民とのふれあいのなかで、穏やかな暮らしを支援します。を事業所理念とし、実践につなげている	当ホーム独自の理念として、後半部分に「地域や地域住民とのふれあいのなかで、穏やかな暮らしを支援します」と柔らかく表現しており、玄関横やフロアに掲示し職員一同その実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者を始め近隣在住の職員が多い為、地域の年間行事が把握でき、参加することができている。又事業所よりセミナー等を開くことで、地域住民との、関わりも増えている	地域の年間行事を把握し、神社の祭りなど参加出来るイベントには参加している。事業所も近隣の中学生の介護体験実習の場を提供したり、認知症セミナーを開いたりして、地域にとけ込んでいく努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所より、地域の人々に呼びかけ認知症についての、セミナー等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営会議では、報告や相談等を行いサービス向上に活かしている。又回を重ねる度にホームを理解し、ボランティアの来訪も増えている	運営推進会議については、行政や地域の代表、利用者家族の代表が参加し、活発な意見交換の場となっている。意見は、運営やサービスに積極的に取り入れているが、開催頻度が低い。	昨年度は3回の開催であった。ホームの状況も刻々変化しており、課題も出てくると思えるので、開催頻度を高める努力をすべきと思える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議にて、市役所役員、地域支援センター、地域関係者へ、事業所に実態を報告し、意見、アドバイスを受け、サービスの向上に努めている	市の担当課(介護福祉課)とはよくコンタクトが取れており、色々相談事によって貰っている。介護相談員も受け入れ、問題点についてアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビングの扉は、日中開錠しているが、玄関扉は現在安全性の確保が難しく、短時間のみの開錠となっている	「高齢者の身体拘束・虐待について」のマニュアルを活用し、研修を徹底し身体拘束をしないケアを心がけている。やむなく拘束する場合は、必ず家族の了解を得て市にも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないように、告知義務に努めている。拘束については、管理者をはじめ全職員と、カンファレンスを開き、緊急やむを得ない理由を、十分に説明し、最小限度で行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の来館時には、確実な申し送りを行い、それがどのように、関係し活用されるのかの、質問等や、後見制度についてを学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて、十分な説明を行っている。不安や疑問においても、十分な説明を行い理解、納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には意見や希望等が、話やすい雰囲気をつくり、玄関には意見箱を設置し反映させている	運営推進会議や家族会で、運営面やサービスについてよく意見が出される。また、家族の来訪時何でも言って貰いやすい雰囲気を作っている。利用者からは、普段の何気ない会話からくみ取る努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会は特別に設けていないが、何かあれば随時現場の声として、報告し、調整を行うようにしている	毎月1回の職員定例会議で、ホームの運営やサービスの見直しなどの時間を設け、現場の声として運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の雇用形態、就労条件を考慮し、且つ本人の能力、努力を評価した賃金体系としている。又厚生労働省実施の、処遇改善事業の導入により、職員の処遇改善を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や、習熟度に合わせた研修を行っている。研修報告は会議等で全員に行い、ケアの統一を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を図るため、外部研修等で、ネットワークづくりを実践し、相互訪問を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時には、受容態勢で本人からの聞き取りを行い、ありのままの状態を、職員全員が受け止め安心した関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ケアも私達の仕事であると認識し、違った環境の暮らしの中での立場や思いを受け止めながら、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が、現在何に悩み不安なのかを見極めて、その思いを共有し、多様な方向からの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性格を十分に理解したうえで、お互いが必要とする関係づくりに努めている。出来る事は見守り、出来ない事は共に協力しながら行い、信頼関係ある暮らしを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、記録等を開示し近況報告を行っている。問題があれば、そのつど相談し解決できるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や電話を通じ馴染みの関係が、継続できるように支援している	社会との関係を断ち切らないように、家族と相談しながら友人や知人とのつながりを継続する支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が弾むように、職員が間に入り関わり合いが、もてるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も、家族からの相談や悩み事があれば、そのつど、対応している。必要であれば、出向いてフォローし、相談や支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの隠れた想いに、職員全員が、会議等で話し合い、同じ方向性をもってケアにあたる支援に努めている	利用者の人生歴を詳細に把握し、性格や趣味、日頃の思いなどを全員で共有している。それでも困難な場合は、機嫌のよいときの何気ない会話から把握するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな小さな情報も家族から徴収し、相談等を行いながら日々の積み重ねをもって、馴染みの関係が築けるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者にチームによる担当を決めて、より細かい情報を会議等で報告し、職員全員が現状の把握に努めている。出勤時間帯別の、申し送りノートがあり、細かい情報も把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方はこのまま継続しても良いのか？細かい気づきや、見えない心の部分を感じ、十分に話し合い、現状に即した介護計画作成が、出きるように努めている	ケアプランの作成については、最初のアセスメントシートを参考にし、スタッフ会議でアイデアを出し合い本人本位のケアプランを作成している。モニタリングも1ヶ月に1度は行い、プランの達成度や変更性の有無を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がわかる様式にて記録をおこない、その日の気づきは、必ず申し送りノートや、様観ノートに記入している。見直しがあれば、会議等を、速やかにおこない、改善に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、職員が、通院に同行している。同行の際も本人や家族の希望を優先し、柔軟な支援で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力(歌タイム・ギター演奏・かみしばい・手品・踊り等)や多様な地域行事に、参加することができ、楽しい時間を過ごせている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医や、ホームの協力医のほか希望により月2回の往診で、一人ひとりが適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変更し難い利用者については、家族と共に受診を支援している。かかりつけ医を協力医療機関にした利用者については、月2回の往診を含め、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニックにより、医師・看護師との連携がとれており、日々利用者の情報や相談は、適切におこなえている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医での緊急入院では、お互いのサマリー等の情報交換が、早期にできている。近隣に病院があり、何かあれば、すぐに対応することができる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化がみられたときは、主治医に相談しながら、本人・家族等と話し合い、ご本人にとって一番良い暮らしが、できるように支援している	重度化した場合や看取りについては医療行為が必要となり、ホームの方針として対応出来ない旨家族の了解をとっている。当然医療機関に入院していただくこととなる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、毎年心肺蘇生法の講習会を施行しており、職員は積極的に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、避難訓練を行っている。災害時に備えて食料や、飲料水を確保している	毎月1回は非常災害時の避難訓練を行って、マニュアルの手順通りに動作ができるよう努力を続けているが、まだ万全とは言えない。	昼間はともかく、問題は職員の少ない夜間の非常災害時の利用者の避難である。そのためには、近隣住民の協力が得られるよう運営推進会議などで話し合う必要があると思える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は全て個別におこない、保管場所には鍵をかけている。どのような状態においても、利用者の心を傷つけることのないように対応している	「個人情報について」のマニュアルを元にして、職員入職時には徹底して研修している。普段の声掛けやトイレ誘導、失禁時の対応、入浴介助など利用者のプライバシーに充分気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格を把握しその時々、状況で、臨機応変に対応し自己決定できるように、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や、訴えを見極めて、それを優先している。職員側の決まりごとが、あっても、利用者のペースにより変更している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスにより、好みの髪型にカット・カラーされている。顔剃りや、お化粧品も希望によりおこなえる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から嗜好品の申し出は少ない為、家族からの情報や、日々の会話の中でとらえ、提供できるように心がけている。食事の準備やかたづけ等は職員と楽しみながら、おこなえている	利用者の意向をできるだけ反映した献立をホームで立て、食材を購入し、調理や盛り付けはホームの厨房で行っている。後片付けは利用者も手伝ってくれる。職員も同席して同じものを食べ、利用者の食事をフォローしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じてミキサー食や刻み食にし、その日の体調により調理法を工夫している。水分は、脱水にならないように、個別にチェックし対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践している。就寝まえには、義歯を預かり消毒を行っている。又ミキサー食の利用者は汚れや臭いが残らないように、口腔ウェットにてケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	顔色や行動により、一人ひとりの排泄パターンを把握し無理じいせずに、誘導している。把握の段階で、利用者の心を傷つける事のないように言葉かけに注意し支援を行っている	利用者は排泄感を感じると、必ずといっていい程何かサインを出す。それを見逃さずトイレ誘導を行い、排泄パターンを把握し自立排泄を支援している。排泄チェック表も職員全員が必ず目を通し、トイレ誘導をして、自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて、一人ひとりのパターンを把握しできるだけ、飲食物や運動にて、便秘を予防している。便秘の為に、徘徊や不穏状態になっていないかの様子観察も、行い支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのその日の体調や気分を受け入れて、出来る限り希望に添えるように支援している	隔日入浴を原則としているが、曜日や時間帯は可能な限り利用者の意向を優先している。入浴嫌いの利用者に対しても、職員がうまく誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の申し送りや、その日の体調を見極めて状態により、休息を促している。就寝前には、できるだけ、職員と話す時間をつくり、安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名は、プレートがあり理解出来ているが、薬効や副作用に関しては理解が少ない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族より利用者の趣味や、得意としていた事等の情報をいただき、タイミングをみては、日々のケアのなかに取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、家族に相談し外出の協力をお願いしている。外出が難しい時は、ホーム横の農園や、ベランダに出て日光浴を行っている	気晴らしや近隣住民への挨拶、季節感を感じて貰うため、利用者のADLに合わせた散歩を支援している。コースには神社参拝やスーパーでの買物などがある。遠方(緑地公園、万博公園など)への外出については、家族支援の元によく行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金の所持はしていないが、日々の買い物等では、好みの物を選んで頂きレジの支払いをおこなうように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が繋げている。手紙や年賀状は、本人が書き一緒に投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレからリビングに悪臭がしないように換気・消臭している。トイレと浴室は、扉一枚で出入りでき汚染時には、素早く対応ができています	開設して既に6年が経過しているが、共用空間は広くて清潔感がある。厨房については食堂を兼ねたリビングと対面式であり、見守りケアに充分である。2階の廊下には、敷物敷き詰め機や椅子を設置した和風の空間があり、家族の来訪時よく利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の、くつろげる場所として、適所にソファを設置している。家族の面会等では2階の和風スペースを使用し、団欒される姿も増えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、できるだけ馴染みの物を配置し、不安や、混乱のないように工夫している。又職員との信頼関係ができれば、一緒に心地よい物を探せるように支援している	担当スタッフの名前入りの大きな表札が、利用者の目線に合わせてドアに貼ってあり、間違い防止の工夫が見られる。一部トイレ付きの個室もある。ホームからの提供物は最小限に止め、利用者は使い慣れた家具や日用品を持ち込んで生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングとベランダが、つながっている為、洗濯物の干し入れを自由に行えている		